

第20回みちのくウイルス塾講演予告…講師紹介と聴講のツボ

今回はちょうど区切りの良い第20回です。新型コロナとオリンピックで世が騒然としているときのあえての開催です。そのため今年は一日だけでの開催となりました。そのため内容の濃く、また話題のコロナについての特集にしました。また20回記念として、ウイルスセンターにゆかりのある人たちにお願ひしました。

1. 札幌市保健福祉局 前国立感染症研究所ウイルス第一部長 **西條 政幸 先生**

「COVID-19 と SARS-CoV-2 ウイルス」…コロナウイルス関連ミニレクチャーと行政のしごとについて

ウイルスセンターの創設者、沼崎義夫先生の愛弟子で、ウイルスセンターで学んだ後、国立感染症研究所でウイルス第一部長をされ、主に昆虫媒介性ウイルス感染症の研究に従事されました。今年ご出身の北海道に戻り、地元の新型コロナ対策に大きく貢献しておられます。

本講義では新型コロナの病気とウイルスの概略と流行地の行政の現場の話をお願ひしています。

2. 山形県衛生研究所微生物部専門研究員技師 **駒林 賢一 先生**

「季節性コロナウイルスの疫学と培養」…ありふれているのに、つかまえられなかったウイルス

駒林先生はもう一人の愛弟子山形衛研所長水田先生の推薦で次世代のホープです。新型コロナのずっと以前からヒトのコロナウイルスは重症化しない“カゼ”の原因ウイルスとされてきましたが、本当の詳しいことは不明でした。山形衛研はその解明において世界のトップを走っており、それを実質的に動かしている先生です。新型コロナを知るにはそれ以外のコロナウイルスについて知ることは大事です。

3. 東北大学大学院微生物学講座 教授 **押谷 仁 先生**

「COVID-19パンデミックはなぜ起きたのか？ パンデミックは防ぐことはできなかったのか？」

…新型コロナ・パンデミックとの闘いの中からの問い

先生は、ウイルスセンターで学んだ後、アフリカのザンビアにウイルスセンターの協力で JICA がつくったウイルス研究施設で研究と現地の人たちの教育をしたのち、新潟大学を経て WHO 西太平洋事務局で尾身事務局長の下で働き（2003 年の SARS 流行でのめざましい活躍が有名です）、その後母校の教授となり現在に至っています。皆さんご存じ、国の新型コロナの対策で、尾身先生が会長の分科会の主要メンバーとしてご活躍なさっており、日本の新型コロナの流行の全体像の把握とクラスター解析を手掛けておられます。超多忙の先生のお話を聞ける絶好の機会です。

4. 長崎大学大学院小児科学 教授 **森内 浩幸 先生**

「子どもにとっての COVID-19」…子どもの新型コロナ感染についての正確なところを知ろう

先生は長崎から沼崎先生率いるウイルスセンターに勉強しに来られ、山形大学医学部でインフルエンザの研究で医学博士の学位をとられた先生で、米国 NIH 傘下の研究施設でたくさんの良い仕事をして ASM（米国微生物学会）の若手表彰も受けられています。帰国後母校の小児科講座の教授となり現在に至っており、臨床ウイルス学のけん引的存在ですが、最近はワクチン学会理事として様々なメディアで新型コロナワクチンに関する解説をなさっていますので、見かける人も多いでしょう。先生は小児科医としてこの病気を冷静に診ており、小児にとってはそれほどの脅威ではないということ、多くの人に伝えています。

5. 国立国際医療研究センター 国際協力局連携協力部 保健師 菊地 紘子 先生

「アフリカの片すみから」(リモート講義) …アフリカにおける国際医療協力のはなし

菊地先生は、私がウイルスセンターに着任したばかりのころ当院の看護学校の学生さんで、夕方にアルバイトで働いてくれた方です。そのころから、卒業したら国際的なところで働きたいという夢を語っていました。保健師となってその夢を叶えており、仕事とアフリカ生活を楽しんでおられます。現在、アフリカのセネガルという国のダカールというところが活動拠点で、アフリカでの感染症の現状や保健師としての仕事について、インターネットを介してリモートでお話ししてくれます。世界は狭くなっています。当塾の20回の歴史の上で初めての看護師/保健師の講師です。

以上 文責 ウイルスセンター 西村秀一